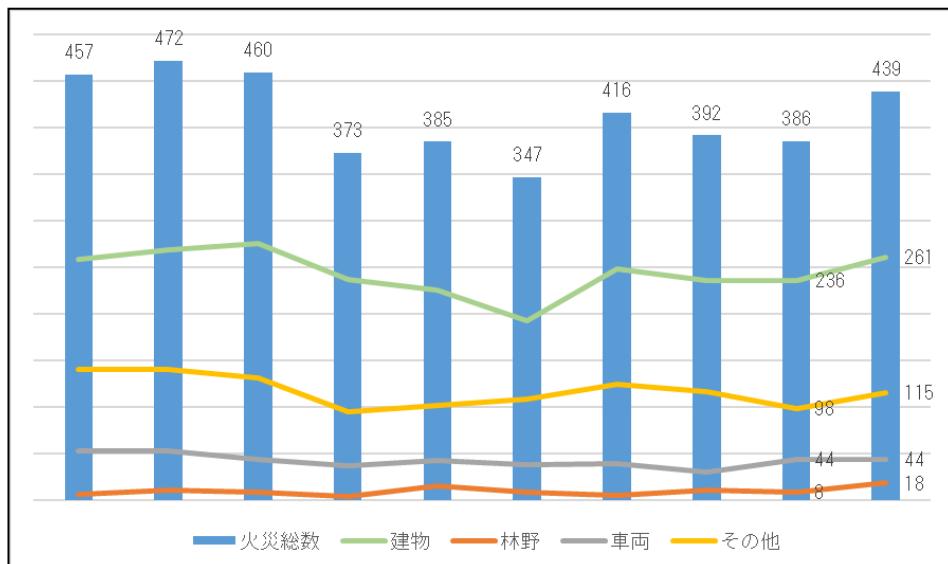


1 火災の状況

(1) 全体の概要

火災件数は439件で、前年と比較し53件増加しました。

内訳としては、「建物火災」が261件で前年から25件増加し、「林野火災」は18件で10件増加、「その他火災」は115件で17件増加しました。また、「車両火災」は44件で、前年同数となっています。



【図1】火災件数の推移

(2) 原因と特徴

火災全体では「電気関係」が原因の火災が96件で前年から18件増加しており、特にリチウムイオン電池が起因する火災が増えています。

また、「焼却火」が原因の火災が43件発生し、前年から16件増加しました。特徴としては枯草や廃材の焼却を行う際に、不注意から周囲へ大きく延焼したケースが多く発生しています。特に風の強い日や乾燥時に拡大しやすくなります。下記の対策・注意点を参考にしていただき、火災予防にご協力をお願いします。

「リチウムイオン電池」の火災予防対策

- ・純正／PSEの充電器・ケーブルを使用し、長時間の充電は避ける。
- ・高温環境下（車内、暖房器具付近など）や、水濡れを避ける。
- ・膨張・変形・発熱は、すぐに使用を停止する。
- ・持ち運びは耐衝撃・耐火ケースを推奨。

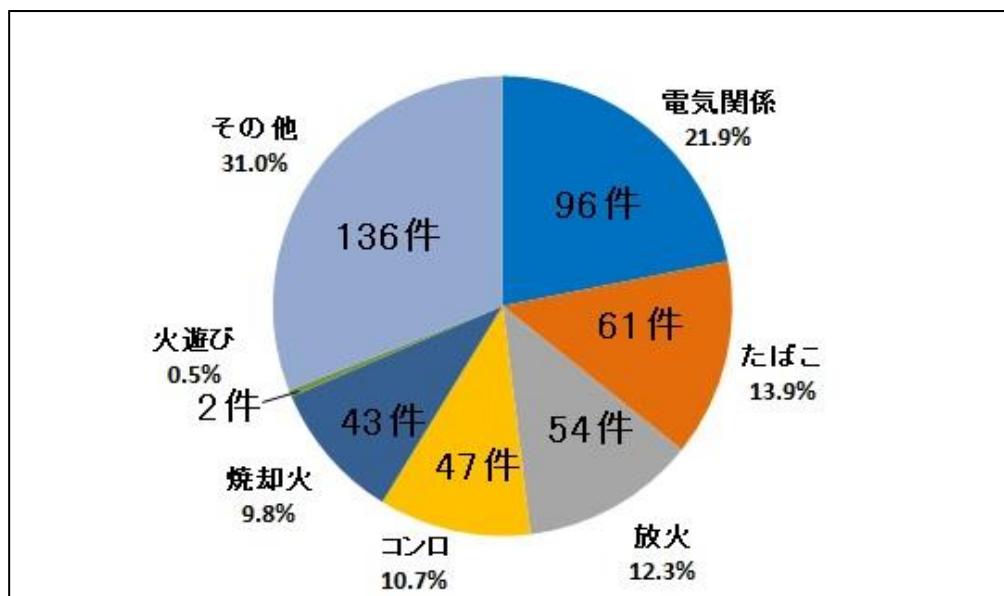
参考動画「火を噴くモバイルバッテリー」

<https://www.youtube.com/watch?v=2kJdCXIfjQM>



「焼却する際」の注意点

- ・風の強い日、乾燥注意報発表時は焼却を行わない。
- ・事前に消防署へ届出を行い、万が一のために通報手段を確保しておく。
- ・周りに燃えやすいものがある場所で行わず、水バケツ、水道ホース等を準備する。
- ・必ず複数人で行い、火が消えたことを確認してから離れる。

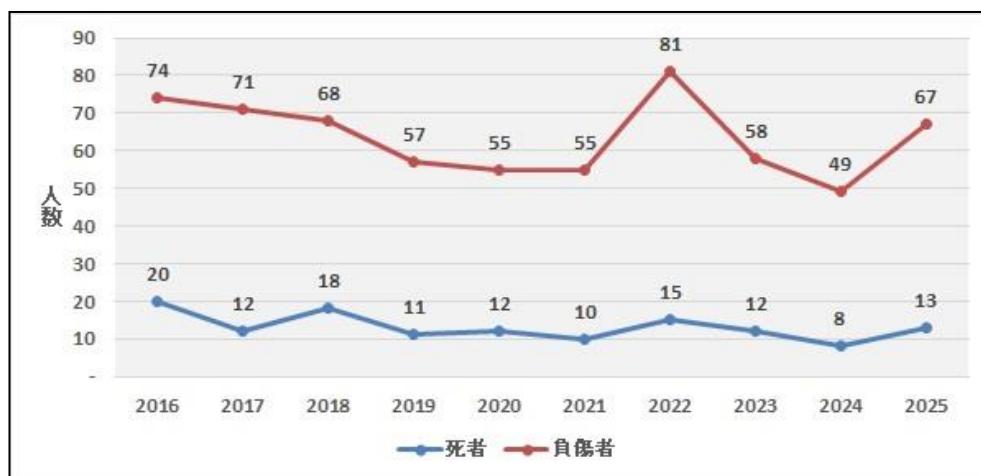


【図 2】出火原因別火災件数

(3) 死傷者の状況

火災による死者は 13 人で前年から 5 人増加しました。そのうち住宅火災による死者は 12 人で前年から 6 人増加しています。

また、火災による負傷者は 67 人で、こちらは前年から 18 人増加しています。



【図 3】火災による死者・負傷者数

<参考>住宅火災の危険性と住宅用火災警報器の効果について

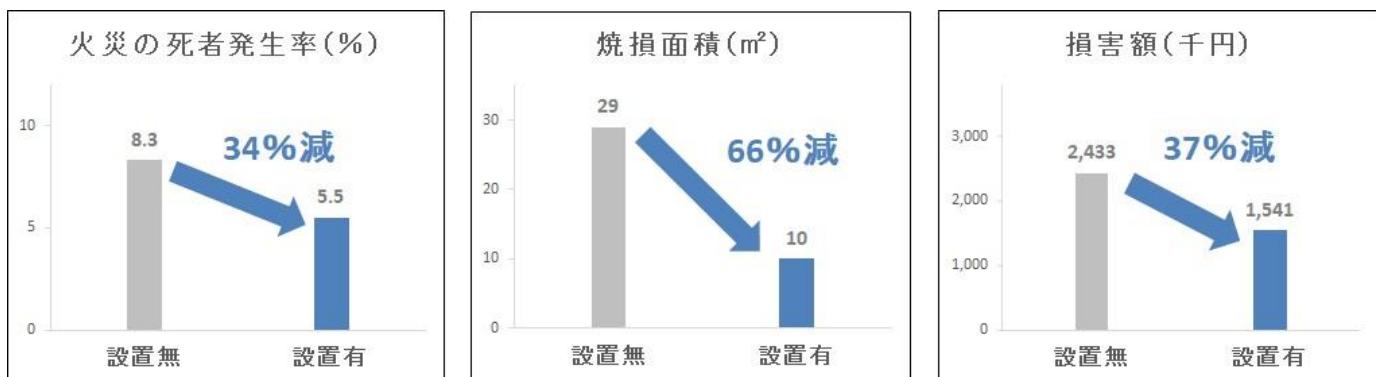
住宅火災は145件で、前年から17件増加しました。また、火災による死者の多くが住宅火災によるものとなっており、13人のうち12人が住宅火災による死者数となっています。

一方で、損害の状況を住宅用火災警報器設置の有無で比較すると、死者、焼損面積、損害額のいずれにおいても大幅に減少しています。

【表1】住宅火災による死者数

年	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
火災による死者の総数	20	12	18	11	12	10	15	12	8	13
住宅火災による死者数	15	8	12	9	8	5	12	9	6	12
住宅火災の件数	152	153	157	136	140	114	140	140	128	145

注:住宅火災による死者数には、放火自殺者は含まない。



【図4】過去5年間の住宅用火災警報器設置の有無による損害比較

2 救急の状況

(1) 全体の概要

救急出動件数は 93,238 件、搬送人員数は 81,314 人で、前年と比較して救急出動件数は 6,037 件 (6.1%) 減少し、搬送人員は 3,250 人 (3.8%) 減少しました。

出動件数は減少しましたが、4 年連続 9 万件を超えて、いまだ高い水準が続いています。本当に必要なときに救急車がすぐ到着できるよう、下記コールセンターを利用するなど、引き続き救急車の適正適時・適切な利用にご協力ください。

また、例年、夏と冬に救急搬送される方の数が増加する傾向があります。夏と冬に多い救急搬送原因とその対策を神戸市 HP (下記参照) にて紹介していますので、事故や病気の予防にご活用ください。

神戸市 HP 「夏と冬に注意！救急搬送が多い病気とは？」

<https://www.city.kobe.lg.jp/a84309/kyuukyuu/season.html>



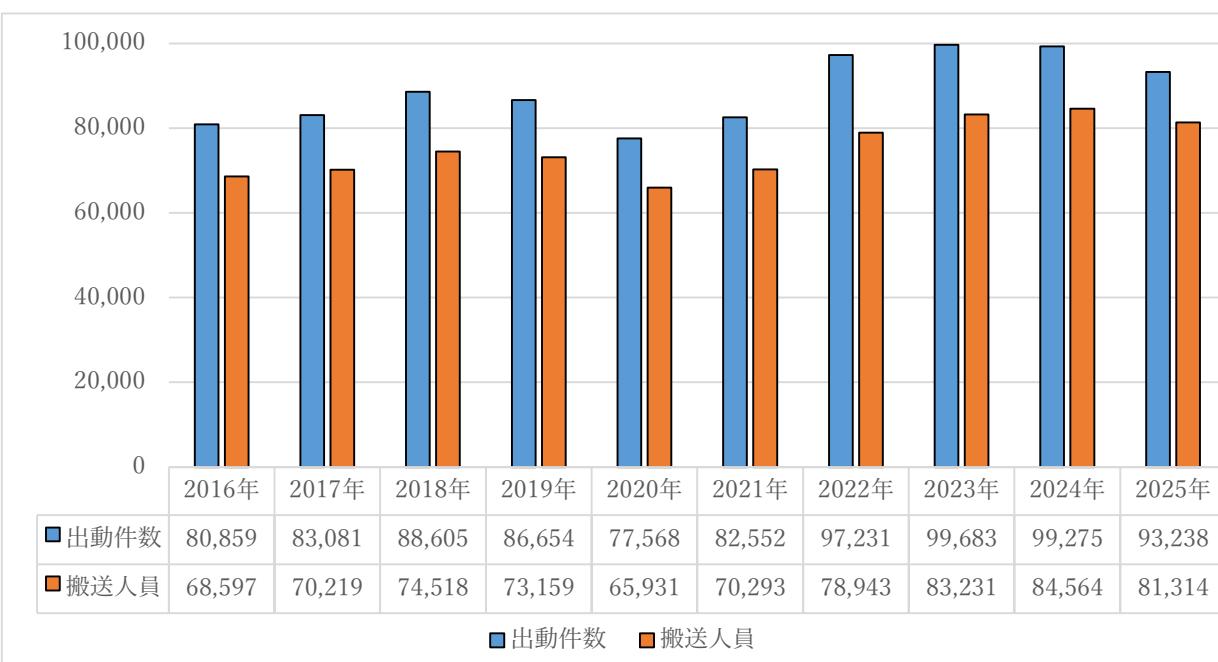
【救急安心センターひょうご (#7119)】

救急車を呼ぶべきか迷った時や、どの医療機関をいつ受診すればよいかわからない時に、
24 時間 365 日いつでも相談を受け付ける短縮ダイヤル

※つながらない場合は、直通ダイヤル (078-331-7119) におかけください

【おくる電 (050-3733-7555)】

「病院など外出時の手立て（交通手段）に困っている」という方に、
24 時間 365 日いつでも最寄りの介護タクシーを紹介するコールセンター

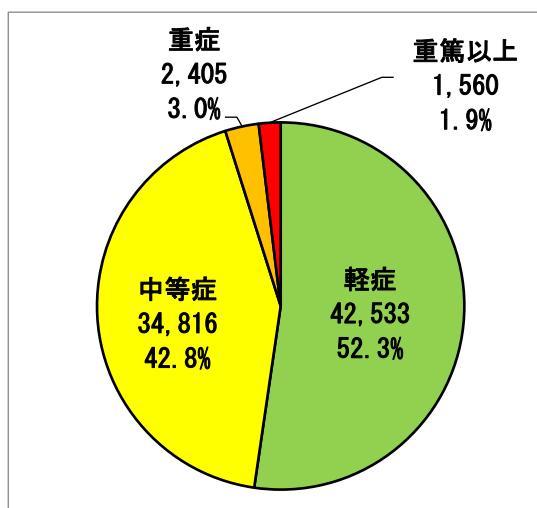


【図 5】救急出動件数と搬送人員数

(2) 傷病程度ごとの搬送状況

傷病程度ごとの搬送人員数は、入院を要しない「軽症」が最も多く 42,533 人で、全体の 52.3% を占めています。続いて 3 週間未満の入院が必要な「中等症」が 34,816 人 (42.8%) 、次に、3 週間以上の入院が必要な「重症以上」が 3,965 人 (4.9%) でした。

前年の搬送人員に占める割合と比べると、「軽症」は 1.4 ポイント減少し、「中等症」は 1.3 ポイント増加しました。



【図 6】傷病程度ごとの搬送状況（人）

(3) 事故種別ごとの出動件数

事故種別ごとの出動件数は、「急病」が最も多く 61,306 件で全体の 65.8% を占めています。続いて「一般負傷」が 17,584 件 (18.9%) 、「転院搬送」が 6,090 件 (6.5%) でした。

前年と比べると、多くの種別で減少しており、特に「急病」が 3,745 件、「転院搬送」が 866 件減りました。

【表 2】事故種別ごとの出動件数（件）

種 別	2025年		前年比	
	件数	割合	件数	増減率
急病	61,306	65.8%	▲ 3,745	-5.8%
一般負傷	17,584	18.9%	▲ 166	-0.9%
転院搬送	6,090	6.5%	▲ 866	-12.4%
交通事故	3,996	4.3%	▲ 248	-5.8%
自損行為	764	0.8%	▲ 60	-7.3%
労働災害	595	0.6%	33	5.9%
運動競技	426	0.5%	▲ 64	-13.1%
加害	315	0.3%	▲ 43	-12.0%
火災	224	0.2%	14	6.7%
水難	30	0.0%	9	42.9%
医師搬送	7	0.0%	1	16.7%
資器材等	1	0.0%	0	0.0%
自然災害	0	0.0%	0	0.0%
その他	1,900	2.0%	▲ 902	-32.2%
合 計	93,238	100.0%	▲ 6,037	-6.1%

(4) 年齢別の搬送状況

年齢区分別の搬送人員数は、「高齢者（65歳以上）」が52,909人と最も多く、全体の65.1%を占めています。

前年と比較して、ほとんどの年齢区分で減少しています。特に「新生児」は157人と前年から63人減っており、他の区分と比べて減少率が高くなっています（28.6%減）。一方で増加した区分は「18～29歳」のみで25人増えました（0.5%増）。

【表3】年齢別の搬送人員数（人）

年齢	2025年		前年比	
	人数	割合	人数	増減率
新生児	157	0.2%	▲ 63	-28.6%
乳児	454	0.6%	▲ 31	-6.4%
1～6歳	2,841	3.5%	▲ 241	-7.8%
7～17歳	2,507	3.1%	▲ 175	-6.5%
18～29歳	5,151	6.3%	25	0.5%
30～39歳	3,159	3.9%	▲ 252	-7.4%
40～49歳	3,925	4.8%	▲ 180	-4.4%
50～64歳	10,211	12.6%	▲ 218	-2.1%
65歳以上	52,909	65.1%	▲ 2,115	-3.8%
合 計	81,314	100.0%	▲ 3,250	-3.8%